

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

神奈川県 清川村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	97.62	1,663	

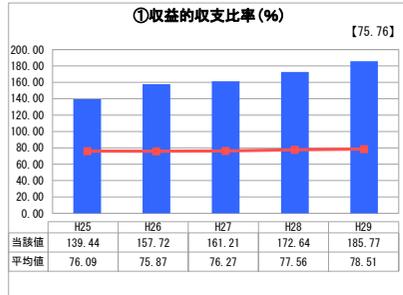
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,979	71.24	41.82
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,914	4.50	647.56

**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)

【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



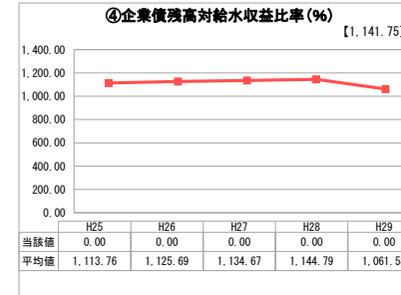
「単年度の収支」



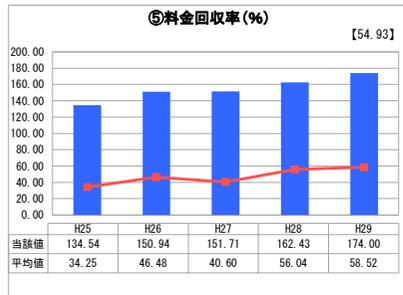
「累積欠損」



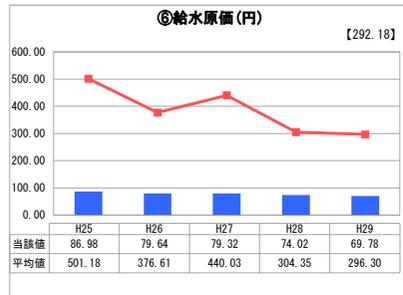
「支払能力」



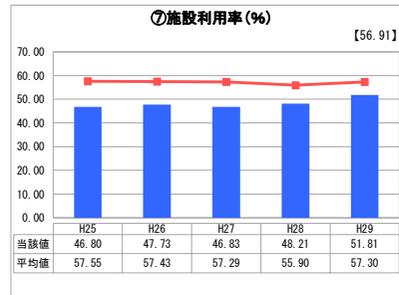
「債務残高」



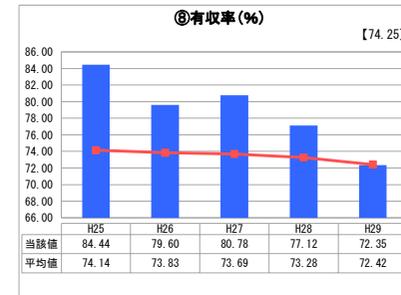
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

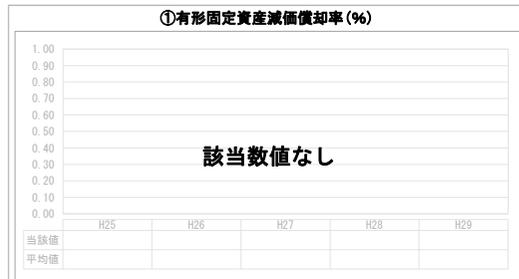


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

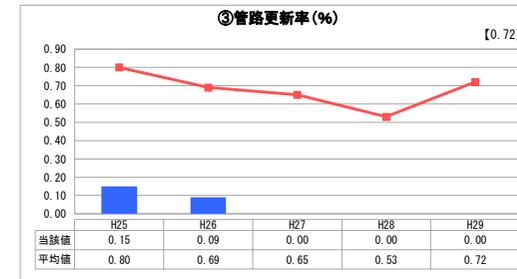
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は100%を超え、平均値も上回っております。また、企業債の借入高もなく、料金回収率についても100%を超え、平均値を上回った回収がされており、比較的健全な経営であるものと思われまます。

給水原価についても、運転管理経費を極力抑えていることから、平均値の4分の1程度で、かなり低い原価となっております。有収率については、ほぼ平均値となっておりますが、近年は下がり傾向にあるため、漏水調査を実施して、無効水量の低減に努める必要があります。

有収率の向上に努めて、より経営の健全化を図るとともに、料金収入が年々下がっている傾向のなか、施設の老朽化対策を講じていくため、更なる経費の縮減が求められます。

### 2. 老朽化の状況について

施設・設備の老朽化については、10年計画（H19～H28）を立て、電気計装設備等の更新・改修に努めてまいりましたが、機械設備及び管路について老朽化が進んでいることから、中長期的な財政計画を踏まえ、平成28年度に策定した「第2期更新事業計画（H29～H38）」に基づき、今後も適宜更新・改修を進めていく必要があります。

### 全体総括

近年、各家庭において節水型家電の普及、また、人口の減少に伴い、年々水道使用量の低迷が進んでおります。一方、施設・設備の及び管路の老朽化により、維持管理経費は増加傾向となっていることから、収支のバランスを見据え、施設管理の委託化による経費の縮減を図るとともに、平成28年度に料金の一部改定（値上げ）をしたものの、当面は国庫からの交付金等が見込めず、自己財源による経営となることから、財政調整基金の推移により、料金改定の必要性を検討していく必要があります。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。